

クラカアグリ株式会社



●農業経営の概要

所在地：岡山県倉敷市西中新田525-21

参入形態：農地所有適格法人（平成28年設立）

経営品目：野菜（令和2年度：キャベツ10ha、レタス80a、青ネギ4ha）

資本金：2,100万円

労働力：従業員5名、パート1名、派遣社員3名、外国人実習生6名

関連会社：倉敷青果荷受組合（事業内容：青果物卸売、カット野菜製造・販売）

（調査年月日：令和2年12月）

～加工・業務用野菜の生産拡大に向けて～

農業参入の目的

「倉敷青果荷受組合」のカット野菜事業では、県内外の農家との契約により原料を調達している。当組合では、加工・業務用野菜の生産を自ら実践し、儲かる経営モデルを示すことで、岡山県内の契約農家の拡大と加工・業務用野菜の生産振興を図るため、「クラカアグリ株式会社」を設立し、農業生産事業へ参入した。

農地の確保

農地確保にあたっては、岡山県や岡山県農地中間管理機構（以下、「機構」）のほか、倉敷市や総社市、矢掛町に相談し、半年かけて最初の農地を矢掛町内に確保した。それに至るまでには、現地説明会を開催するなど、参入地域の理解獲得に努めた経緯がある。

その後も機構等を通じて総社市（清音・小寺地区）、倉敷市（真備・矢部地区）の農地を借り受け、現在は5地区にわたる約16.5haまで経営規模を拡大している。

農地所有適格法人での参入であるが、確保した農地は全て貸借によるものである。

農業経営の経緯や現況

農業経営の開始は平成29年からで、同年に経営改善計画の認定を受けて認定農業者となり、農業近代化資金や青年等就農資金の融資により施設・機械を整備した。また、国や県の補助事業も有効活用し、早期の生産基盤確立を進めている。

<生産部門>

- ・参入時からキャベツ、レタス、青ネギの3品目を、全て露地栽培で生産している。
- ・機械化によって農作業の省力化と栽培面積の拡大を進め、経営の安定化を図っている。
- ・農作業担当には、農業経験者、大学農学部や農業大学の卒業生を採用し、配置している。
- ・有料クラウドサービス「agri-note」を導入



キャベツ栽培の様子

し、農地管理の効率化や作業記録の共有化を図っている。

<販売>

- ・生産した3品目は、全量を「倉敷青果荷受組合」に販売している。同組合が製造するカット野菜の原料に占める「クラカアグリ(株)」供給分の割合は、キャベツの場合で10%である。



カット野菜の商品一覧

農業参入の効果や課題等

- ・担い手不在となった水田の管理を持ちかけられるなど、参入した地域からの信頼を獲得し、地域農業の担い手として認められるようになった。
- ・経営規模の拡大に伴い、スマート農業の導入に向けて情報を集めているが、農地の多くが中山間地にあり面積が小さいため、無人作業機械等の活用は実現が難しい状況にある。また、農地が点在（ほ場総数は約180筆）しているため、機構に対して農地集約への協力を要請しているところである。

今後の展開

- ・カット用野菜の生産と供給を経営の軸としつつ、こだわり野菜の生産や、新たな事業として計画している乾燥・冷凍野菜への原料供給にも取り組み、バランスの取れた経営に努める。
- ・法人が取り組む「中山間地域の農業経営モデル」確立を目標に、規模拡大を進めながら、さらなる安定生産と品質確保に努め、安定した収益の確保を目指していく。また、グループとして、地域農業を担う人材の育成に努めることで地域に貢献する。（栽培契約を結び農業経営を開始した生産者の経営安定のため、定植から出荷までをサポートする取組を大佐町などで進めている。）

農業参入を目指す企業へ

農業は、他産業に比べて思いどおりに進まない部分が多く、とても難しく、厳しい事業です。安易な考えによる参入は、大きなリスクを負いかねず、入念な計画に基づいて参入することが大切です。経営開始後は、施設・機械の整備に相当の初期投資がかかりますが、一般的に経営開始から最低3年間は赤字を覚悟しておく必要があり、それを踏まえた資金の調達・返済計画の策定も重要になってきます。

また、農産物の販売先は、農業参入後に決めるのではなく、事前に協議して販路を確保してから経営を始めることが肝要です。

なお、農業経営の初期段階では、わからないことも多いので、協力者や同志を見つけたり、生産者による協議会やJAの部会などに加入して仲間づくりや知識習得を図ることも必要となります。

